



今、勉強していることが

火曜日の放課後、河合塾の本郷校（東大専門・浪人のみ）と横浜校（早慶コース）で小論文を担当している先生をお招きして、約2時間、小論文指導のやり方などについて、国語科の先生方で勉強会を開いた。さすがプロだけあって…って、我々もプロだが、この方は小論文の指導だけを専門に担当している方だけあって、色々参考になることがあり、有意義な勉強会だった。

主として、3年生の慶応志望者と国公立医学部志望者を対象にした指導法について伺ったのだが、その中には3年生になってからは遅い、むしろ、今から準備を進めておいた方がよいと思われる内容もあったので、ここに簡単に報告してみよう。

＊

まず慶応だが、例えば経済学部2011年の問題は、「環境問題を解決する上で市場メカニズムを導入することは有効であるが、それでは解決できない事例を挙げて論ぜよ」というものである。課題文があり、それを足がかりに考察することになるが、この問題を見ただけでピンと来た人がいるはずだ。そう、ちょうど今現代文で勉強している「経済の論理／環境の倫理」と重なる内容なのである！あの評論がきっちり理解できていれば、この問題の大きなヒントになるに違いない。

小論文では、書くべきことが自分の中にたまっていないと勝負のしようがない。書くべきことを、さまざまな科目の学習を通して自分の中に蓄積していくことが大切なのであ

る。逆にいえば、だからこそ大学は小論文を課すともいえる。しっかり勉強してきた生徒ほど、文・理関係なくさまざまな分野（科目）から適切な例を示して、斬新な発想の文章が書けるようになることが期待できるからだ。

で、こういうことを3年生からやるのでは遅いということが分かるだろう。

＊

国公立の医学部を受験するとなると、まずは生物ができないとかなり厳しくなるらしい。一般の試験でも生物は重要だし、それ以上に小論文の題材として、生物分野の基礎知識が必要となる出題が多いとのことだ。

同時に、数学では「確率・統計」が得意であることが求められるという。というのも、医学部に入学してからの実験などで、確率的な発想や、実験結果の統計処理が求められるから、大学側としては、その基礎知識の有無を入試段階で問いたいのだそうだ。

生物も確率・統計も、ともに1年の学習範囲だし、「情報」の授業で扱っているエクセルの基礎的な運用技術なども、入学後に役立つ場面が出てくるに違いない。

さらに、山中教授のノーベル賞受賞で、「再生医学」が今後の大きなテーマになることが予想されるという。これについては、ちょうど今、テレビや新聞など、さまざまな報道を通じて解説がなされているところだから、医学部を志望する諸君は、しっかりとチェックしておくことを勧めたい。

とにかく、一日一日の授業を大切にしよう。